

## 実践報告書

英語による表現力を高める考察から合同授業によるDVD絵本作成

釣晴彦 (人文学部)

佐藤ケイト (人文学部)

### 目的

日本人学生と留学生間のインタラクションを通して、相互の理解を深め、異文化コミュニケーション能力を高めることによって、日本語でメイクストーリーをして絵本を作成し、それを英語や他言語に翻訳してDVDを製作する。

### 方法

英語の表現力を高める視点から専門ゼミナールB (英米文学科) 釣晴彦と全学共通特別演習B (2) 佐藤ケイトとの合同授業を試行する。

期間は、2016年9月23日～2017年1月27日。人数は、17名 (留学生2名)

- ・ 1回目9月23日 (金) 計画の説明とゲストスピーカー (廣瀬律子氏) がストーリーの作成方法を伝授する。
- ・ 2回目9月30日 (金) 3回目10月7日 (金) 4回目10月14日 (金)  
日本語でメイクストーリーをグループで作成をする。4人で一グループ。今回は4グループ作成する。  
絵は外部の人に依頼するので、20ピースの原画を想定させて、テーマを与えてメイクストーリーをさせる。
- ・ 5回目10月21日 (金) 各グループがプレゼンテーションをして、全員でストーリーを1つ選ぶ。しかし、1つの選定が難しく、4つのストーリーを作成することに軌道修正する。
- ・ 6回目10月28日 7回目11月4日 (金) 8回目11月11日 (金)  
それぞれの言語に翻訳する。言語は、英語、フランス語、中国語、韓国語、スペイン語、ルーマニア語に決定する。
- ・ 9回目11月18日 (金) 10回目11月25日 (金) 11回目12月2日 (金)  
各言語の朗読の配役を決めて練習する。イラストが完成する。編集をしながら朗読のタイミングを図る。
- ・ 12回目12月9日 (金) 札幌学院大学にて音撮りする。
- ・ 13回目12月16日 (金) 14回目 1月13日 (金)  
編集を重ねてDVD完成する。全員で鑑賞してプレゼンテーションを行う。
- ・ 15回目 1月27日 (金) アンケートに記入してもらい、評価と課題を確認する。

### 成果

協働でメイクストーリーをすることで、最初に母語を効果的に運用する能力が問われた。学生が創作して表現する意欲を高めたり、個々の興味・関心や能力・適性に応じ

て課題にそれぞれに取り組み、協働して問題の発見・解決に関わり、互いに評価し合ったりして、効果的な活用を志向し探究する姿勢が目立った。また、留学生を含めて、自分の価値観や信条は大切にしつつも、自分とは異なる価値観や信条を持つ人たちを理解し尊重し、異文化理解と外国語の必要な知識を身に付けることで表現教育の創造性、発表する能力、高度の思考能力、コミュニケーションスキル、情報テクノロジーの能力等を十分に活用してDVDを制作することが出来た。芸術性までは追求出来なかったが、学生達の多くは達成感を味わっていた。

#### 課題（展望）

グローバルの視点で協働作成することで創造性やプレゼン能力を育成したかったが、予想より留学生の参加が少なく、台湾と中国の留学生2名であった。もう少し留学生が多く参加していれば、もっと面白い展開になった可能性がある。

日本語の文章構成力や表現効果に関して、もっと深める時間が必要であり、具体的な問題の発見・解決に取り組むことを通して、その過程や方法を意識して考えるとともに、適切かつ効果的な活用を探究する時間と余裕も必要であった。

小学校、中学校、高校のICTの教材作成として活用できるか、また、Youtubeへ動画掲載することで、多種多様な反応や評価を得ることも今後の課題である。

